

資料編

↳ 周南公民館の事業・講座での資料から↳

小池さんは、館報「ひろば」の掲載だけでなく、様々な公民館事業にも携わっています。

例えば、小学生を対象にした自然体験事業「もくもく探検隊」（平成 17～24 年度）、ふるさと運動の一環として実施した『すなみ巨樹・古木・名木マップ』発行事業（平成 20～21 年度）、里山環境や地域自然・植物などをテーマにした「周南みどり塾」（平成 25 年度～現在）などです。

今回は、『樹木医のつづやきのまとめ』発行にあわせて、これらに関連する資料を掲載しました。

※なお、横書きのため、巻末からの掲載となります。



- 上から
- ・周南みどり塾 庭木の剪定
 - ・同 鑑賞炭づくり
 - ・小学生に草笛を教える

竹笛の作り方（ダック笛）



- ・ 大小の竹を用意します
- ・ メダケとアズマネザサ



- ・ 小さい方の竹を斜めに切り（3 c m）、切り口をヤスリで磨きます(笛の弁)



- ・ 弁の上の方にフィルム貼り付けます。



- ・ 竹の大きさにフィルムを切ります



- ・ 弁を大きな竹の後ろから差込ます。弁の反対側に穴を開けて、ヒモを通して完成です

クレオメとフウセンカズラの植え付け

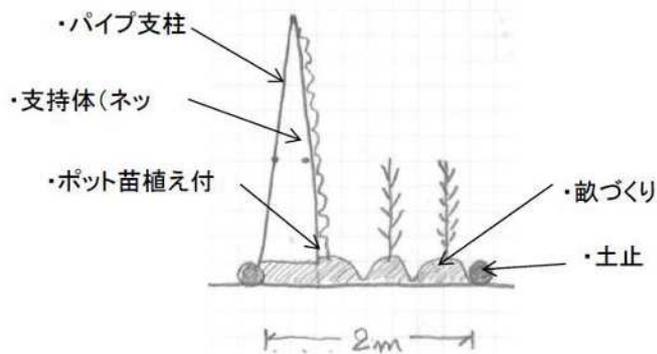
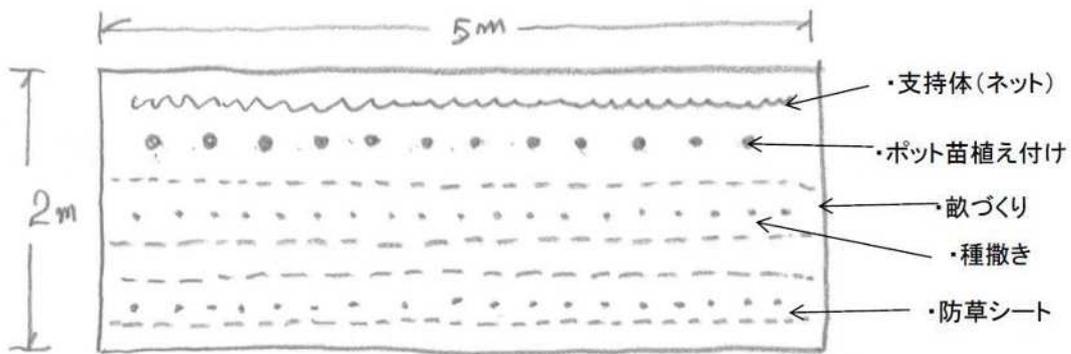
準備として植え付け場所の整備（除草、整地等）を行います。

1. クレオメ

- ・畝を作り、種を撒きます。
- ・緩効性肥料を種に触れないように、播種の上に施肥します。
- ・水をたっぷりかけます。
- ・防草の目的で畑全体を防草シートで覆いします。

2. フウセンカズラ

- ・支柱を立てて、ネットを張りツルが伸びる場所（支持体）を作ります。
- ・畝を作りポット苗を植え付け、ネットに結び付けます。
- ・緩効性肥料を種に触れないように、苗の上に施肥します。
- ・水をたっぷりかけます。
- ・防草の目的で畑全体を防草シートで覆いします。



・使用材料

クレオメ種 フウセンカズラ苗 肥料 支柱 ネット 防草シート 留め金 ヒモ
スコップ ハサミ ジョウロ 水

グリーセミナー（植物のおもしろい話）

○松の木 クロマツ

Pinus thunbergii

1. 日本の松と外国の松との葉の違い
日本—2葉・5葉 外国—3葉・5葉
2. クロマツの新芽は白い、アカマツの新芽は赤い
3. 松の字の由来
木辺に公—公の場所が好き 密会は嫌い
4. 御目出度い木
夫婦和合（同じ袋に2人で入っている） 長寿 門松 松の内
5. 植え方、弱った松の樹勢回復
高植え、土極め（普通は水極め）、弱った木に一センキュウ、イカの煮汁、酒、
6. マツ食い虫の発生
燃料革命、山に入らない、山が荒れる、密会状態
7. 殺菌効果
マツ林・マツの花粉—療養所、切り傷の治療、フィトンチット、

○梅の木 バラ科サクラ属

Prunus mume

1. 木辺に毎—毎年実がなり、薬にもなる貴重な樹木
2. 毎—母の頭にとさかがある。偉いお母さん。
3. 母の字—女が乳が出るようになるとお母さん
4. 木の枝振りが、絡み合い女、女の字が沢山書いてある。
5. 紅梅と白梅
6. 梅の木の剪定

○ケヤキ ニレ科 欒

1. 木目が美しいのでけやききから。香好カヨキの転。挙はケヤキの姿
2. 建築材として古来から使われた。奈良の唐招提寺、京都の東本願寺、皇居桜田門で使われる
3. ケヤキは武蔵野の風景でも代表されるが、房総の山ではケヤキ、イロハモミジ群集で急斜面の岩地でも生育するほど環境適性が広い。

○桜の木 バラ科サクラ属

Prunus

1. 名前の由来
2. 京都御所のサクラと花見
3. 枝垂れザクラは長生き
4. サクラの花は何故散り急ぐか
5. てんぐ巣病の話

○ユズリハ トウダイグサ科ユズリハ属

1. 縁起の良い木—代代譲る、古い葉が全部新しい葉と入れ替わる
2. お正月の飾り—ユズリハ、昆布、スルメ、ダイダイ
3. 代を譲る—葉がシャモジの形に似ていて、姑さんに台所を譲って欲しいサイン

○トチノキ トチノキ科トチノキ属

1. 馬栗一枝に残る葉痕が馬蹄形に似ていて、釘の痕まで見える
2. 柄一本偏に万、と10×ち1000=万10,000
3. 七葉木—葉が3枚からだんだん増えて5枚、7枚で終わる事から
4. 天子栗—インドの仏典にも出てくる。釈迦がトチノキの林の洞窟で瞑想にふけた事から
5. 葉の形、芽の形—洋種の方が葉の切れ込みが深く（重きよし）で、芽に粘りがある物が日本産。
6. 9月上旬には実がなるのでヘソを下にして埋め込むと芽が出る

○コブシ モクレン科モクレン属

1. 実の形が拳の形をしていて、実が糸を引きお母さんと臍の緒でつながっている。
2. コブシの葉が細長く軍艦型、モクレンは丸っこくユーボート型
3. ハクモクの花は大きく葉が見えないが、コブシは花と同時に小葉を付ける。
4. コンパスプラント—蕾の先が北を指す

植物を使った簡単な遊び

○葉の裏に字が書いてある

ヒノキ、サワラ、カマクラヒバ、クロベ、アスナロ、

- ・ガーデンイングブームで庭園にコニファー類が使われるが、葉の裏の模様を覚えて整理すると名前が覚えやすい。

○葉の裏に字が書ける

タラヨウ、サンゴジュ、モチノキ、バクチノキ

○葉を透かして見ると違いが分かる

初ミチ—トウネズミモチ サザンカーツバキ

○葉が糸を引く

ミズキの仲間 トチユウ

○葉で動物他色々の物が表現できる

ゾウリ、動物、

○葉でバッタを作ろう

5感を使って覚えよう

○鼻—香り

クスノキの学名 Cinamomum (シナモン)camphora クロモジ、ニッケイ、ハーブ類

○肌—痛い ○耳—音 ○舌—味 ○目—綺麗

(平成25年6月日 小池)

お庭の管理の考え方（管理しやすい計画）

1. 管理の考え方

- ・建物の場合竣工時が完成であるが、庭の場合スタートである。

植物管理は、植物と人とが共存する技術である。

一般的に植物は、群落として遷移し、極相に近づいて行くものと考えられている。

しかし、そこに人間が生存し生活するためには日当りの良い芝生地や、花壇や、花木の植栽も必要となる。このような存在は、植物の生態からいえば遷移の途中である二次的な状態である。このよに、人がどのような形で植物と共存するかにより植物の配置も、管理の考え方も全く違ってくる。

植栽の目的と管理の考えかを整理すると概ね次の4つに大別出来る。

- A.自然遷移を考えずに人工的に管理する。花壇、芝生広場、花木園等お庭の部分
- B.人工植生を二次林的に管理する 建物周辺の緑地、街路樹、レクリエーション広場等。
- C.人工植生を人工的自然林に近づけるように管理する。公園、自然公園等
- D.遷移の途中にある人工的自然林を、二次林の状態で維持し自然林に近づける。

2. 植物管理の特性

庭木は、緑化の機能のうち景観機能、環境保全機能（癒やし）、防災機能等を支える重要な構成要素であり、植栽計画においてこのような植物の多様な機能をどの様な形で取り入れるかを正確に把握して管理に反映されなければならない。

1) 植物材料の特性として次の事が上げられる

- ・工場生産品と違い地球とつながっている生き物である。
- ・樹木は生長し、繁殖を続けていく永続性がある。
- ・健全に生育する樹木は、植えられた場所の環境に適応し、周辺環境との調和性がある。
このため小さいものを大きく育てる方が良い。（樹木は自分では動けない。最適化）
- ・一つ一つの樹木が、個性美を持つ事。

2) 庭木管理の具体的な作業

- ・目的の景観、樹形としての仕立て
- ・伸びすぎた枝葉の剪定、整枝
- ・グランドカバー類の刈り込み。花壇などの手入れ及び除草。
- ・施肥と病害虫の防除
- ・邪魔になる樹木の移動、故損木の植え替え

3) 管理のポイント

- ・健康な樹木を育てる…土壌条件の整備。植えすぎない。
- ・管理しやすいデザイン…除草、刈り込み、剪定作業を行うときの作業効率が上がるように。
- ・樹種の選定…適時、適地、適木の選定。
- ・リサイクル可能な庭…萩の枝、工芸、薬木、実もの、お茶など利用出来る植物の植栽。

※人間は庭園の中において活動することなく活動し、働くことなく働いている。

土壌と肥料

○樹木に良い土壌環境

1. 通気性が良い

- ・根は酸素を吸って、二酸化炭素を出していますが、土が固まると新しい空気が土に入らず二酸化炭素が残って根腐の原因になります。

2. 排水が良い

- ・新しい水には多くの酸素を含んだ空気が含まれていて、たっぷり灌水すると水はけが良い土では古い空気と新しい空気とが入れ替わります。

3. 保水性が良い

- ・砂のように水をかけても吸収されないようでは乾燥してしまいますので、適度に水分を含む土が良い土です。

4. 保肥性が良い

- ・保肥性の高い土とは赤球土と砂との違いのように、肥料成分を捕まえる手の数が多いか少ないかの違いです。保肥性の高い土では肥料が穏やかに効率良く効きます。

5. 有機質を程よく含む

- ・有機質は土を活性化させる効果があり、植物の肥料ではなく土の肥料と考えた方が良いでしょう。土の中の微生物を育てたり、土の緩衝力を増す効果もあります。

6. 軽すぎず重すぎず

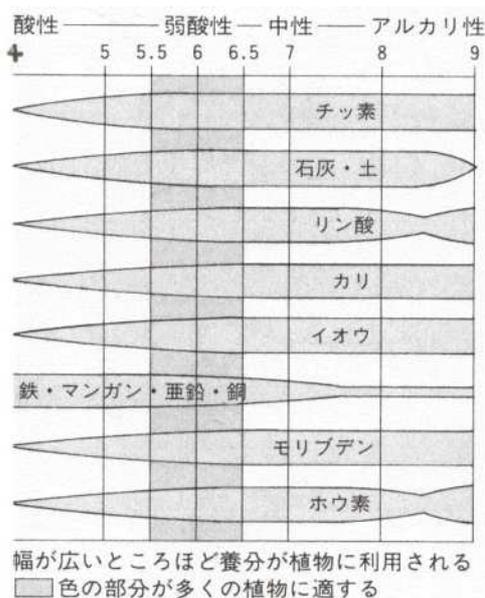
- ・土が軽すぎると水かけで動いたり、植物を保持する事が出来ません。又重たい土は排水が悪く根の発達もよくありません。

7. 中性である

- ・植物に適した酸度は一般的に弱酸性（pH5.5~6.5）が良いと言われています。

8. 清潔で異物の混入が無い

○ほど良い酸度



- ・養分の吸収は土の酸度に影響を受けます。
- ・アルカリ性の強い土では、鉄等の微量元素が吸収できなくなり、葉が白色化する現象が現れます。
- ・酸性が強い土では左表のように様々な肥料成分吸収されなくなります。
- ・疑わしい場合は市販の酸度を計る物が売っていますので調査してください。

○良い土壌を作るには

1. 団粒構造

土の中には、土や砂の粒の部分があり粒と粒の間には隙間があります。この隙間に水と空気が含まれていて、粒の部分が固相、水が液相、空気が気相で合わせて「土の三相」と言います。植物に良い三相の比率は（固相：砂・粘土 30%、液相 40%：土壌水、気相：土壌空気 30%）と言われています。

赤玉に腐葉土を 3~4 割混ぜた土がほぼこの比率です。

○肥料

○植物が欲しがらる食物は

植物の大部分は水で出来ていて、水を除いた部分は 92% が炭素・酸素・水素ですがこの 3 つは空気や水から確保できます。残りの 8% が窒素・リン酸・カリ等の肥料成分で人が与えないと不足します。

植物体（水分を除いた部分） 炭素・酸素・水素	食べ物 肥料の 3 要素 微量元素など
---------------------------	------------------------

○リービヒの法則

植物の成長は、もっとも不足している成分によって支配されているという法則があります。植物の成長に関係する三大肥料である窒素、リン、カリウムは、必須の栄養素ですが、最も少ない量の成分が植物の生長に影響し、他がどんなに多くても肥料効果はありません。

○肥料の種類と使い方

- ・有機質肥料一般的に原料が動植物に由来する物。
分解されてからでないでないと植物に吸収されないで効き目が遅くなる。
- ・無機質肥料—化学合成で作られた肥料。
施肥してすぐ効果が現れる。
- ・速効性肥料—すぐに効き、持続性がない。追肥として定期的に施肥。
- ・緩行性肥料—化学肥料を樹脂などで包んでいるので少しずつ解けて効く。溶け出す速さにより元肥、追肥に使える。
- ・遅効性肥料—ゆっくり長く効くので元肥として使える。

☆肥料（ハイポネックス）、活性剤（メネデール）、発根剤（ルートン）との区別。

施肥と時期

1. 寒肥（元肥）

（1）寒肥とは

寒肥は 12 月～2 月の寒い時期に植物に与える肥料です。寒い時期は白根（細根）の生長はほとんどありませんが、この時期の肥料は土の中で植物が吸収されやすい形にかわり春に白根の生長が始まる頃に効き目を表す肥料となります。樹木は、年間の施肥で元肥が大きなウエイトを示しますので、寒肥が特に大切です。

(2) 与え方

与え方は放射状施肥、つぼ掘り施肥、輪肥などがあります。寒肥を与える位置は、樹木の枝先の真下に、30センチ程度の穴を掘り現地土と混ぜて埋め戻します。他の樹木が隣接して施工で出来ない場合は放射状施肥、つぼ掘り施肥の等の方法で行います。

寒肥を与えるときに、根を切るのもので植物が傷むと心配される方がいますが、細根は切ることによって再生が早いので（新しい根を出す）、むしろ根の更新になって樹木にとっては良い条件です。

肥料は有機質を主にして過磷酸石灰などりん酸肥料の多い化成肥料を与えると良いです。

・成木 1本 油粕600グラム程 ・低木 60グラム程度

2. 春肥（追い肥）

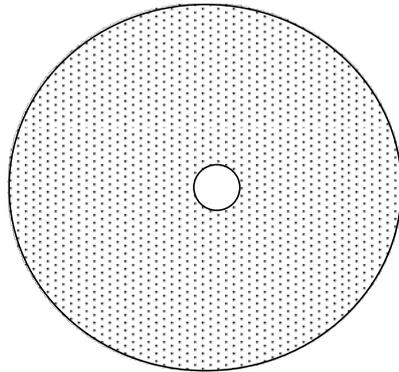
芽だし、花肥と言われ窒素肥料が使われる

3. 夏肥

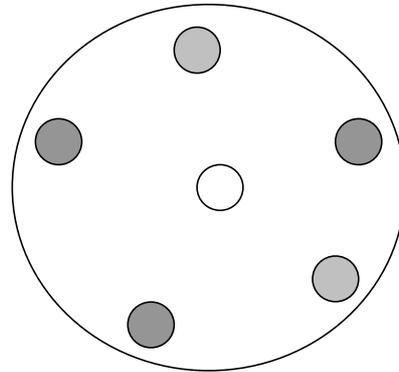
春肥が切れる頃に行われる物でチッソ肥料とカリ肥料を混合した化成肥料

4. 秋肥（お礼肥）

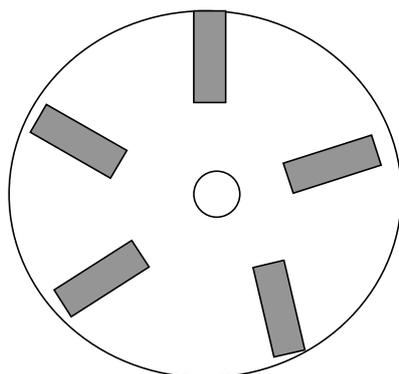
来年の養分の蓄えを多くする目的で化成肥料を施す



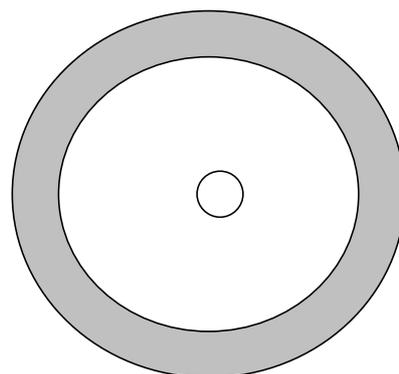
表面施肥



つぼ掘り施肥



放射状施肥



輪肥法

・寒い時耕す利点

- 1) 土が掘り返すのでネキリムシ等の害虫などが寒さで死んでしまう事。
- 2) 土が冷風にあたり風化が進み、よりこなれた土になり、植物が育てやすくなる。

樹勢回復

・表土の耕起

根元回りの表土を根を傷めないように耕起し、土質によりパーク堆肥、パーライト、木炭、緩行性肥料等を混入して土壤改良を行う。

表土耕起の範囲は、根系の状況を調査して位置、面積等を決め樹種に状況により掘削深さを決める。

根の乾燥に注意し、短時間の作業を心がける。



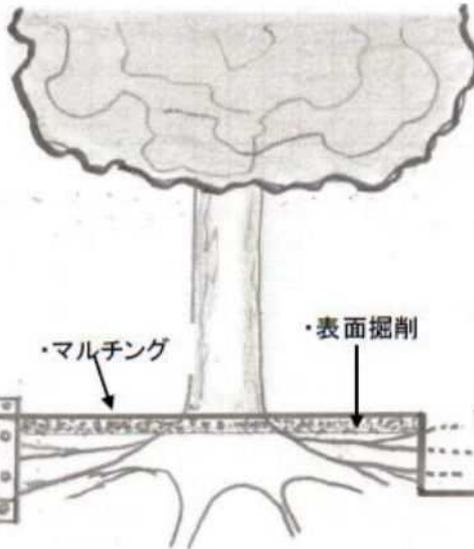
・表土の耕起と根の周りの掘削



・土壤改良材を混入し埋戻し



・空気管



・マルチング



・空気管埋設



・孟宗竹の空気管

・孟宗竹による改良

全面耕起できない個所ではスポット的に土壤改良を行う。(狭い場所、根を傷める、古木等で急な環境変化をきらいもの等)方法は孟宗竹に穴を開けて、その中に木炭、モカウ、肥料等を入れて根の回りに埋め込む。埋め込む位置、数及び空気管の中に充填する材料等については樹木の状況から判断して決める。なるだけ地域発生材を利用する。

・根回りの掘削

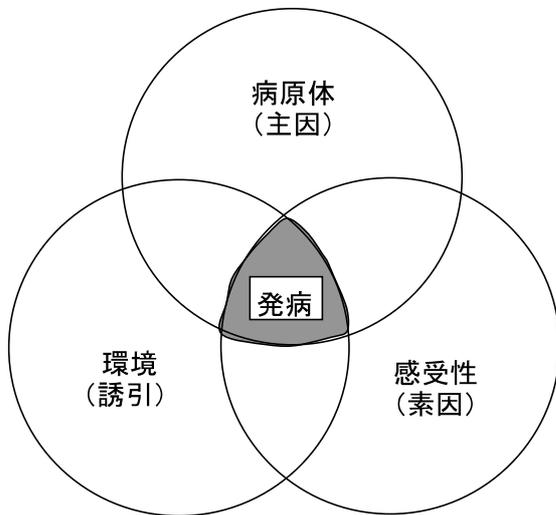
根元回りの雨落ち線内に、樹木を中心として、円形に掘りまわす。深さ幅は状況によるが概ね300×300を目安とする。

出てきた細根は、切り戻しを行い、改良土で埋め戻す。

平成25年6月25日 小池

植物の病気の仕組み

○病気発生の仕組み



1. 病原体
糸状菌 細菌 ウイルス等
☆伝染性の病気
2. 感受性
植物が病気にかかり易い性質
・アメリカハナミズキはウドンコ病にかかり易い
・シャリンバイはサビ病にかかり易い
・ツツジはアブラ虫がつき易い
3. 環境
発病を誘発する環境
☆非伝染性の病気
・土壌条件の不良
・気象条件の不良
・環境汚染物質の影響

・発病： 伝染源—（昆虫、傷口、樹液等）—侵入—（環境、感受性）—感染—発病

○防除方法

防除法の種類	方 法
物理的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・熱による殺菌 ・太陽光線で施設内の消毒 熱による種子消毒、土壌消毒 ・光による防除 アブラ虫 銀のシート
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・病気が発生した枝を取り除く ・落葉の葉の掃除、焼却 ・剪定などによる風通し、日当たりの改善 ・排水改良による過湿防止
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・殺菌材、殺虫材による媒介昆虫の防除も含む。
生物的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の利用

○伝染の仕方

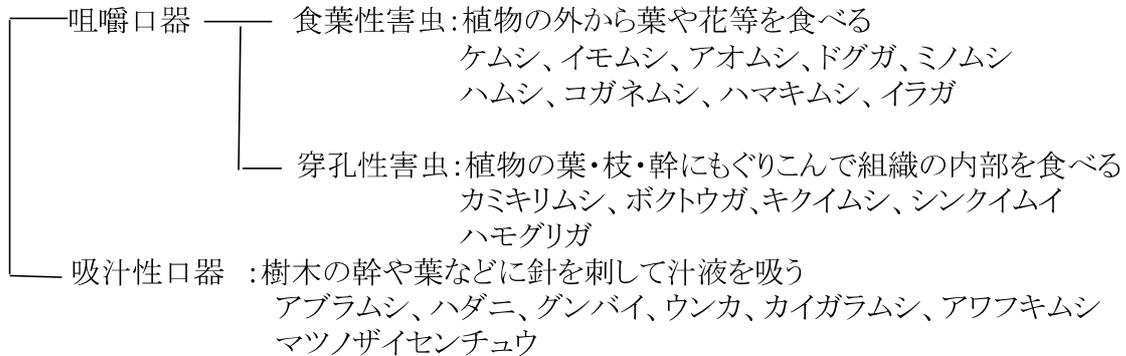
伝染の仕方	内 容
風媒伝染	・胞子が風により飛ぶ。糸状菌の伝染方法。
水媒伝染	・病原菌が雨滴や水の流れによって移動する。
虫媒伝染	・昆虫などの体に付着したり体内に取り込まれて伝染する。
接触伝染	・病原体を含む汁液が運ばれて伝染する。剪定などでも伝染する。
土壌伝染	・病原菌が植物の根や、地面に近い樹皮から侵入し伝染する。
種子伝染	・病原体が種子の中に入り伝染する。

○診断方法

1. 葉、花、実の色と形の変化(汚れ、汚点など)調べる。斑点、スス、穴、腐敗他
2. 枝の形がないか調べる。テングス病、肥大、
3. 樹木の木肌を調べる。胴枯れ、コウヤク病、炭素病等
4. 幹の地表面に近い部分を調べる。キノコ、ガンシユ病等
5. 全樹に萎れなどがあるか調べる。根ぐされ、モンパ病他

害虫と防除法

○害虫の分類



○害虫形態

1. 食性の区別

- ・広食性（アメリカシロヒトリ）と狭食性（チャドクガ）

2. 生活環の区別

- ・1化性昆虫と多化性昆虫（アメリカシロヒトリ）

☆広食性で多化性昆虫は1年で2回も繁殖し色々な樹木を食害するので注意が必要。

又アブラムシは繁殖力が異常に早いので初期防除が重要。

○防除方法

防除の種類	方法
物理的防除方法	<ul style="list-style-type: none"> ・手や簡単な道具で捕まえて殺す。 ・熱で焼き殺す。(アメリカシロヒトリ)風で吹き飛ばす。 ・マツの害虫防除でコモマキの方法がある。 ・光、色で昆虫の活動を制御する方法。
耕種的防除方法	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木を健全に育てる事で病害虫の抵抗力をつける。 ・剪定、整枝により通風、日射条件を良くする。 ・枯れ枝、被害枝の除去。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・殺中剤による防除。 ・誘引剤、忌避剤による防除。
生物的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・害虫の天敵の利用

○診断能力

1. 枝、葉などに虫がいないか、異常（葉の孔、膨れ、葉巻など）がないか調べる。
2. 枝にヤニが出たり、幹に穴が開いたり、傷がないか調べる。
3. 根元に木屑、虫糞がないか調べる。
4. コガネ虫、ヨトウ虫のように夜活動する虫もいる。

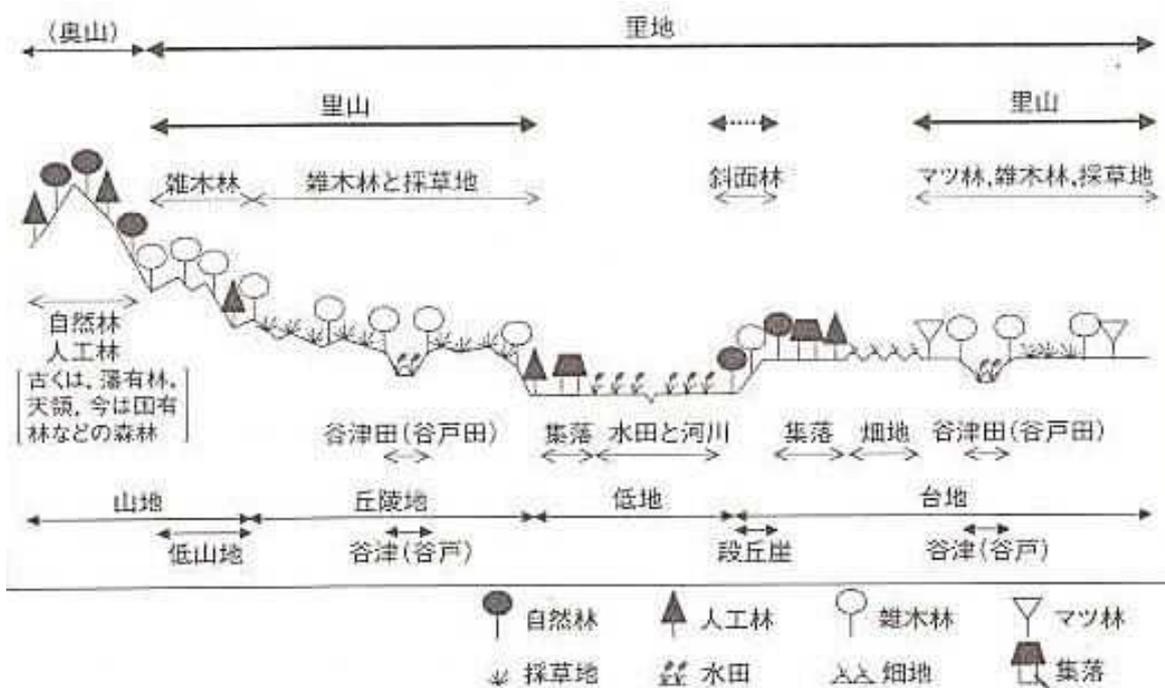
里山と管理（みどり塾資料）

○里山とは

里山は人々の暮らしと密着し、薪炭林として農用林として薪や炭を生産する場所として又堆肥を作る葉、下草を集めるための林であった。戦後、農業や人々の暮らしが化学肥料や化石燃料に依存し始めると薪炭林や農用林としての役割は終わり放置されている林が多くなった。

- ・里山のイメージ（参考資料里山の環境学：山本、2000 転記）

関東平野の農村風景は雑木林（二次林）、水田、集落、畑地、小川等が見られる。これらを全て含めて里地と呼びその中に里山（二次林、草地）がある。



○里山の課題

科学技術の進歩と都市の拡大により人間社会は、人工化とグローバル化を進めその結果資源、エネルギーは住民の生活の場で求めるのではなく外部依存を高めて行った。特に1960年以降の高度経済成長では自然破壊、環境汚染が拡大し、又温暖化等、地球規模の気候変動も進んだ。このような状況は里山機能を大きく衰退させ、山菜等の山の幸の採集、気候緩和や水質浄化、豊かな自然観等里山の恵み著しく低下させた。

その結果として、里山から人が離れて行き、高齢化も進み放置された田畑も増え、孟宗竹林の拡大、イノシシ、シカの獣害も拡大し農作被害も拡大している。

里山の生態系は崩壊寸前にあり、このままでは里山の優れた機能は復元できなくなる。

○なぜこれから里山が必要か

スローライフが求められる今日、里山が持つ生物多様性と言う複雑で壊れにくく持続可能なシステムを利用する時代が来ていると思われる。

里山が生物多様性を持つ理由は先ず小川・水田・ため池等の多様な水環境のネットワークが挙げられる。次に人が介在する森や畑や、草原は色々な環境が創出されモザイク状に多様な動植物が生息できる環境がある事と、土地に合う動植物を見つけ改良もしてきた。最後に自然を畏れ敬う気持ちが節度ある資源利用によって、自然を守り又地域の祭り、寄りあいの中からその土地文化が育まれてきた。

・里山との付き合い方とその魅力は

- 1) 里山との係わりは、里山を破壊するものでなく、むしろ里山の価値効用を増すものでなくてはならない。その事で里山から自然の恵みが頂けるし、その付き合いは生物多様性を高める物になる。
- 2) 里山と言う限られた空間であるが、そこに携わる人々が節約、再利用、循環と言うやさしい気持ちで里山と接する事で持続可能な空間を創出できる
- 3) 限られた資源、空間では、そこに暮らす人々の助け合いや分かち合いの気持ち、地縁がコミニティーを作る。
- 4) 美しい地域の自然景観と伝統・文化は命の大切さ、思いやる心を育む。

(参考資料：里山の重要性と課題、そして再興への方向性 中村俊彦)

「ただ、どの国であろうと農村が汗して培った農業景観には、地味であるが、誠実で手堅く健全な心を揺り動かす感動がある。‘これぞ本物の美’という真実がある。

いま旅人たちはその深い味わいを与えている農民の存在を知っているのだろうか」
「イギリスに、こんな諺がある。農民たちは作物を作るだけでない。

国土の庭師の仕事もしているのだ」

転記：朝日新聞の日曜版（平成6年6月）東京農大の進士五十八教授

○里山整備の作業項目

里山整備の基本は‘持ち込まない、持ち出さない’‘現場処理’をモットーとする。

・植栽維持管理年間作業内容

維持管理作業を実施するには、作業項目をグルーピングし、最小の経費で最大の効果を上げる事が出来るように作業項目の設定、作業頻度、作業適期の選定を行う必要がある。

作業項目のグルーピングのポイントは、その作業内容が定期的作業か不定期的な作業か又は台風対策等の臨時的な物かに分けて、作業項目別に優先順位をつけて作業スケジュールを立てることである。尚、管理作業は植物が対象であるので、植物の萌芽、伸長、肥大と言った、植物生理を十分考慮して実施の時期、方法を選ばなくてはならない。

最も単純な事であるが、一度行った事をやり直す‘手戻り’‘がないように心がける事。主な作業内容と時期は次の内容に整理出来る。

○主な作業項目

主な作業の項目	時期	頻度
タケ、ササ刈り	8月	3～5年
孟宗竹林整備	8月	通年
ツル切り、枯れ枝、枯れ木の除去	適宜	通年
間引き伐採	休眠期	3～5年
剪定	適宜 冬季	通年
落葉かき	冬季	通年
移植・植栽（実生）	適宜	通年

○具体的な作業内容

1) タケ、ササの刈り取り

タケ、ササが進出し密生しているところがあるので刈り取る。時期としては夏期が最適で、刈り取り1年後にも芽が出るので2～3年刈り取りを続けて森の整備が進み林冠が覆ってしまえばササは出てこない。

2) ツル切り、枯れ枝、枯れ木の除去

- ・下刈り、つる切り・間伐 ・枝下ろし
- ・残材処置、落葉掻き ・補植

○残材処置 整備上で発生する発生材は林内処理を基準とするが、その一つの方法として枝葉を集めて、ビオネストを作り処理と景観を兼ねる。



4. 里山を活用したイベント

- ・小枝のクラフト・タケ細工・自然観察・苗木の植栽・鑑賞炭づくり他
- 里山では高齢者、幼児、障害者他あらゆる人たちが楽しめるイベントが計画できる。

5. 里山の積極的な利用

緑とのつき合いは地球が活動をしている間、ついてまわる問題である。

我々のまわりに緑が存在する事が生きている証であるにも関わらず、緑の保全、管理と言う点から考えるとやっかい者扱いしている事が多い。しかし、私たちの生き物の共存者として育て見守り、毎日の生活の中で活かすことが出来れば貴重な存在となる。

○里山の積極的な利用方法について述べる

1) 間伐材の利用

林内の園路整備、階段、土留め等間伐材を利用する事により、美観的にも経済的にも有利に施工出来る。尚、剪定枝、間伐材をチップ化して歩道に敷く事により、景観的な馴染みも優れていて、歩き易く、分解して土壌に返るので自然に優しい工法とも言える。

最近、サクラ材のチップは人気がある商品である。

2) 里山からの自然生産物

・タケノコ ・キノコ類 ・木の実 ・クロモジ他

3) 果実園（人工的に植栽するもの）

最近、自然指向が強く薬剤散布されていない果物が求められる傾向にある。

無農薬で栽培するには、品種改良されていない(原種に近い物)品種が一般的に見かけが悪く、味が落ちるが病害虫に強いと言われている。

ガマズミ、ウワミズザクラ、サルナシ、グミ類、木イチゴ類他自然樹木の中には果物に負けない美味しい実も沢山ある。このような樹種は樹林管理の範囲で十分実を付けるし、原種に近い果樹と共に果実を収穫する目的で植栽する事で樹林の付加価値も高くなる。

4) 密源の樹林

密源植物としてミカン類、アカシア類、トチノキ、レンゲ草、ソバ等があげられる。

密源として利用する場合、なるべく広い面積とシーズンを通して花が咲いている事が良い条件であるので、一企業の範囲でなく地域として考える課題でもある。

5) 健康と癒しの森作り（森林セラピー）

森の中を歩くと気分が爽快になると言われていますがその事が最近化学的に実証されています。森林セラピーの森作りとは、森の癒し効果を高める事ですが、その土地の文化や心が培われてきた本来の森を再生することです。そのためには草本植物を含めてその土地の環境立地に調和した樹林構成が必要です。

6) 最近、環境問題は地球的な関心事であり、地球温暖化防止には樹木の役割が大きく、特に CO2 の削減は世界的な約束事であり CO2 の吸収源として樹木が対象に考えられている。

(平成26年6月12日 森林インストラクター 小池英憲)

自然素材のストラップ作り

自然素材をつかったストラップ作りを紹介します。

材料は木の実が主体です。木の実と小枝の組み合わせも面白い作品が出来ます。

樹の実—クヌギ、コナラ、スダジイ、アベマキ、ムクロジュ、メタセコイア、ヤシヤブシ等
小枝—クロモジ、カンボク、マユミ、サクラ、キブシ

材料の加工

樹の実は採種したら水に浸けて浮いた物は捨てます。その後防虫、腐敗を防ぐために30分程度煮て、良く乾燥（10日程度）させます。小枝も同じです。

作り方

- ①出来上がりをイメージして材料を選びます。
- ②樹の実とヒモはボンドで固定するために樹の実に穴を開けます。飾りの木片小さく切り、穴を開け、紙ヤスリで磨きヒモを通す下準備をします。木片に細工をするとより効果的です。
- ③ヒモを通す穴が小さいので、釣り糸をガバ役として木片などの飾りをヒモに通します。
- ④飾りが完成したらボンドでヒモと樹の実を固定します。
- ⑤先にヒモを樹の実と固定して後から飾りの小枝等を入れても良いです。



・材料



・穴を開け、細工する



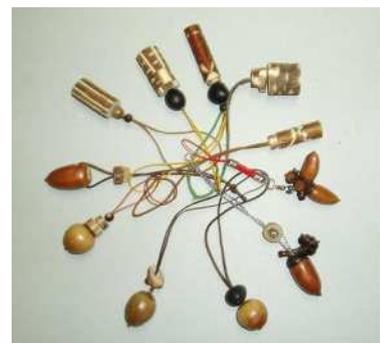
・釣り糸を使いヒモを通す



・接着剤で固定する



・出来上がり



・色々の組み合わせ

色々の組み合わせの作品

色々の素材の組み合わせ、素材自体の形の変化を楽しむ事が出来ます。

又木片の素材には彫刻と切り方の工夫が、ドングリ類には模様を書き、ヒモとの組み合わせ、色々の結び方が楽しめます。

(作成：23年12月18日 森林インストラクター 小池)

君津の里山のドングリの仲間たち

ドングリの仲間を分けると、ブナ科で冬に落葉するナラの仲間と、冬も葉をつけるカシの仲間に分けられます。但しウバメガシはナラの仲間ですが常緑樹です。殻斗で違いを見分けてみましょう。

- ・ 殻斗（ドングリの帽子）が鱗状かイガ状

コナラ属
・ 落葉が主体
・ ウバメガシは常緑



コナラ



ウバメガシ



クヌギ

クリ属



マテバシイ



クリ



カシワ

マテバシイ属
・ 常緑樹

- ・ 殻斗に横筋がある

カシの仲間
コナラ属
・ 常緑樹



アカガシ



シラカシ



アラカシ

- ・ 殻斗は実を包む

シイの仲間（シイ属）
・ 殻斗は実を包む
・ 常緑樹
・ 生食が可能



スダジイ

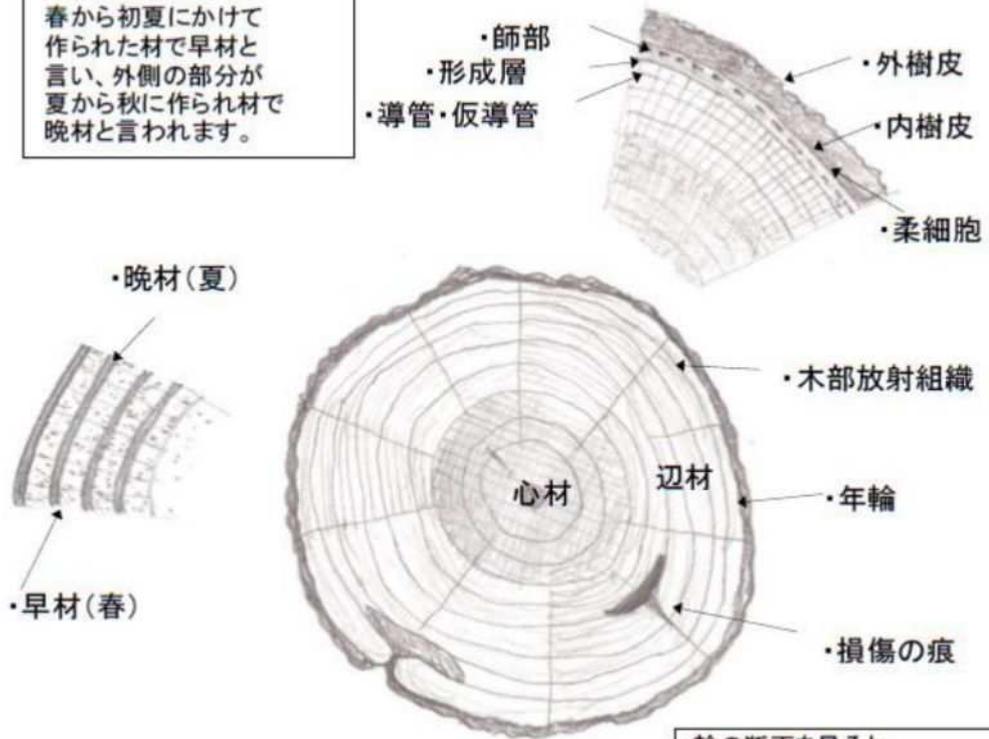
参考までに
ブナ科の樹木は他に
ミズナラ、アベマキ、ウラジロガシ、ツブラジイ、
イチイガシ、ツクバネガシ等があります。

文責：平成27年2月 Koike

年輪は語る

・年輪を見ると、色が明るく粗い部分と材が緻密で色が濃い部分があり、明るい部分が年輪の内側にあり春から初夏にかけて作られた材で早材と言ひ、外側の部分が夏から秋に作られ材で晩材と言われます。

・辺材部分には生きた細胞(柔細胞)と死んだ細胞がありますが、死んだ細胞の中に導管(広葉樹)、仮導管(針葉樹)が根から吸い上げた水を葉まで運びます。柔細胞には篩部組織があり枝葉で作られた糖類は篩部を通り根まで運ばれその内側の形成層では細胞分裂が行われ内側に材を、外側に篩部を作ります。



・年輪幅は気象条件や回りの木の状況によって変わります。雨量や日照時間などの気象条件、回りの木が切られたりして明るくなったり、逆に育って暗くなったりといった環境変化などです。森林の中では方位にはほとんど影響されません。

・幹の断面を見ると、大まかに中心部(心材)が暗く周りが明るく(辺材)外側に樹皮があります。昔できた傷痕は飲み込まれて傷跡が残っています。年輪から色々な事が想像できます。

年輪の簡易な測定法

1. 幹回りから測定する方法
 $\text{根元直径(cm)} \div 2 \div \text{係数} = \text{年輪}$ (係数は成長度合い生育環境で違う0.2~0.5)
2. 枝の年輪が枝折れ、剪定をして数えられる場合
 $\text{枝の年輪} + \text{枝までの成長年数} = \text{年輪}$
3. 枝の節を数える方 松類等の若木は数えやすい
 ○正確に数える場合
1. 成長錐を幹に貫入し取り出たコアから年輪を数える

四つ目垣の作り方

1. 材料

親柱 1.8m 2本 間柱 1本 真竹 1束 棕櫚縄

1) 竹の選び方

- ・ 1面から見て真直ぐ見えるもの。傷がある物、極端に曲りのあるものは避ける。

2) 竹の切り方

- ・ 手前に回しながら切る。刃先で切るように。

2. 作り方

・ 親柱、間柱の立てこみ

- 1) 親柱を立てる位置を決めて、60 cm程度埋め込み真直ぐ立てて固定する
- 2) 胴縁をつける位置を印する
- 3) 2本の親柱に間柱を立てる高さで水平に水糸を張る。下の方には間柱の位置を示すためにヒモを張る。
- 4) 間柱は胴縁の分だけ控えて立てる。

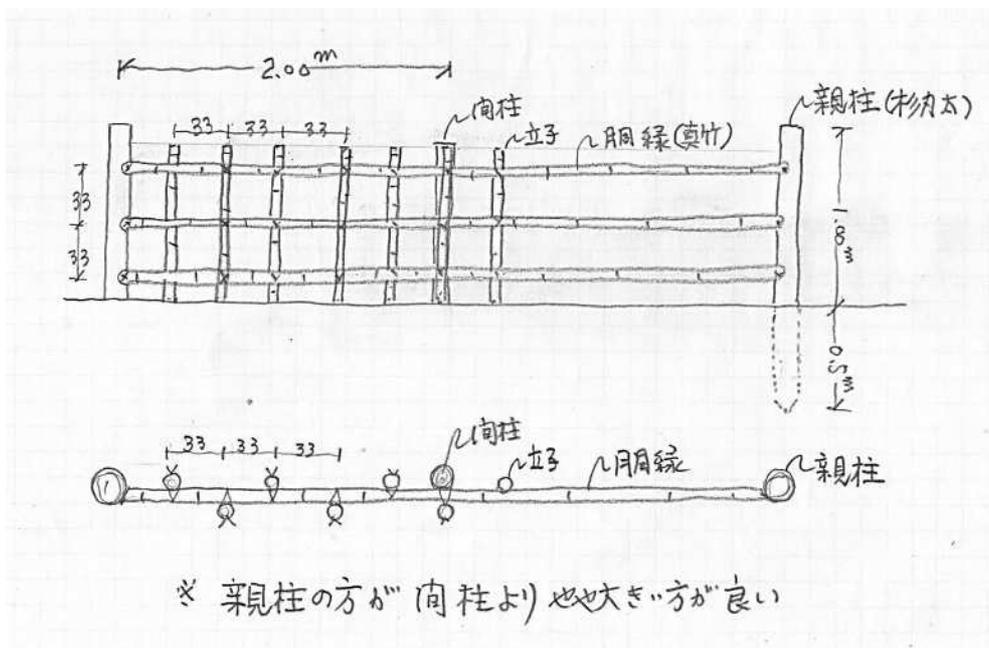
・ 胴縁の取り付け

- 1) 正面から真直ぐに見えるように、節の方を正面に向けて末口、元口を交互に取り付ける。胴縁に立子位置を印をしておく
- 2) 胴縁を親柱に取り付けるのは元口、末口を斜めに切り、釘止めする。
- 3) 間柱と胴縁も釘止めする。

・ 立子の取り付け

- 1) 立子は末口を節止めし、水糸の位置で小槌で叩いて天端を揃えて設置する。
- 2) 立子は親柱の柱付きから始め、次に間柱の前に立て順次進める。

・ 立子の設置が終わったら胴縁と立子を結びつける。



男結び (ハイガイ結び)



・ヒモ下から上に



・立子を通して下から上に



・裏で綾がけ



・赤い方が左上から、長い方が右下から
赤い方が上、長い方が下



・両方のヒモを引いて緩まないように
指で押さえる



・赤いひもを中心に長いひもで
輪っかを作る



・輪っかを赤いひもで巻いて縛る



・緩まないように指で押さえ長いひもを引っ張り締める。



挿し木（Cutting）について

はじめに

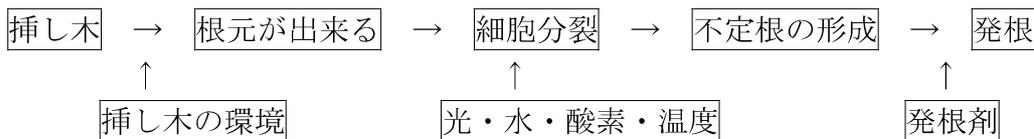
挿し木とは植物のある部分を母体から切り離し、ある媒体の中に置いて発根させ、新植物につくりあげる無性繁殖法の一つです。

挿し木の長所は母樹と全く同じ性質の遺伝子を持った物が一度に多くの苗が増殖でき、開花結実が早い事が上げられます。欠点としては実生より根が浅く、根系が少ないので、成木の寿命が短く諸害に対する抵抗力が弱くなります。

1. 挿し木の生理

発根の仕組みは、挿穂が切り離される以前に枝の組織の中に発根の元となる根元体を持っているものと、切り離したあとに出来るものの2通りあります。

何れにしても根の元となる根元が体内に出来て、その部分から発根する。根元が出来るのが早いか、遅いかが樹木の特性であり、根元が出来れば発根は割りと早く、その速さを決めるのが外的要因です。



1) 内的要因

挿し穂から不定根が出ますが、発根を促す物質が葉茎の中に含まれていると言われていいます。その物質は炭水化物等の栄養物質（糖類他）と成長ホルモン（ヘテロオーキシン）リゾカリン、ビオチン等がありそれが単独で働くのではなく相互に関係しあっています。発根を促す物質の大小は樹種、樹木の年齢、部位、位置、葉、枝の大小、生育環境、切り取り前後の処理の仕方等により違ってきます。又発根を阻害する物質も同じ事が言えます。

2) 外的要因

- ①温度—発根に適する温度は20~25℃で、25℃以上になると挿し穂が消耗したり腐敗します。気温より地温が2~3℃高い方が発根しやすいです。
- ②酸素と水分—地中の空気の流通を良くして保水力、排水力を持つ土壌で雑菌、害虫がいない中性の土壌が好まれます。
- ③湿度—湿度は90%以上必要で、高い方が良いです。
- ④光—直射日光が当たるのを避けます。全く光を当てないと発根しません。

2. 発根仕組み

挿し木すると切り口を癒す組織（カルス）が出来外部と遮断します。このカルスの部分から発根する事が多いですが地際部分、節の部分、節間の部分か発根する樹種もあります。

発根した物が（不定根）全て根になるわけではなく、不定根が水分、養分を吸収して完全な根になります。この段階で発根剤を使うことで、より健全な根を多く出すことが出来ます。

3. 挿し木の時期

○露地挿し

1) 春挿し

2月下旬~4月下旬 落葉樹、針葉樹がこの期間が良い。挿し穂は前年枝を使い、地温は15~20℃程度必要です。

2) 梅雨挿し

6月~7月 春から夏にかけて新梢部分の組織が固まり充実し、気温、湿度が高くなる時期。多くの落葉樹と常緑樹で当年枝を切って挿し木します。

3) 夏挿し（土用挿し）

常緑樹で新芽が梅雨期に固まり、成熟した物。

4) 秋挿し

9月~10月下旬 秋挿しはその年は生長しないが翌春の生育は良いです。

4. 挿穂(Slip)の作り方

挿し穂は母木の充実した当年枝が使われますが、前年枝をつけた方が発根が良い場合もあります。より確実に発根させるには、肥培管理され母樹の萌芽枝が良いです。基本的に葉が多い方が発根が良いですが、あまり多いと挿穂自体の樹勢が衰えるので、葉と幹とのバランスを取るのがポイントです。

5. 挿し床の作り方

挿し床は、挿し木を大量に行う場合路地に客土して行いますが、少量行う場合は植木鉢で行います。挿し床の一般的な条件は次の通りです。

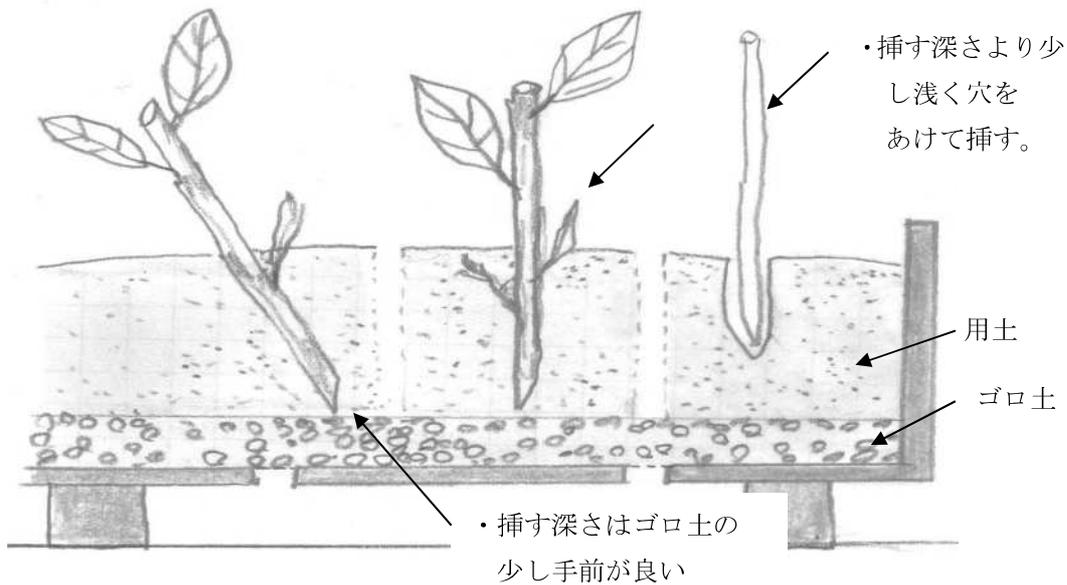
- 1) 保水、排水を良くして土壤の水分を保つ。
- 2) 空気中の湿度を高く保つこと。
- 3) 日陰地が良く、太陽光線の調整を行う。
- 4) 土は自然土壌を使う場合清浄、無菌、無卵であること。
- 5) 改良土として川砂、鹿沼土、赤土、パーライト、バーミキュライトがあるが、樹種により組み合わせて使うと活着が良い。

6. 挿し方

挿し穂を乾かさないように早く挿し木し、挿し穂が動かないように挿し木する事がポイントです。葉茎に発根物質が含まれていると言われてるので、葉も埋め込む気持ちで挿し木します。そのことで挿穂も動きにくくなります。

・挿し方は斜めでも、直でも良い。

・葉が挿し床の土に埋まる程度に挿してよい



7. 管理

- 1) 日照・・・西日を避け、日除けを行う。全く光を当てない事は良くない。
- 2) 降水・・・強い雨の泥跳ねが悪いのでマルチングなどで防ぐ
- 3) 風・・・風による悪影響は大きいので防風を考える。
- 4) 温度・・・雪の害より霜の害に注意する。

◎密閉挿し

- ・ビニール袋で挿し床を密閉し内部の湿度を保ち発根を早める方法。
- ・温度管理が重要ですから、午前中日が当たり午後からは日陰になる様にしましょう。



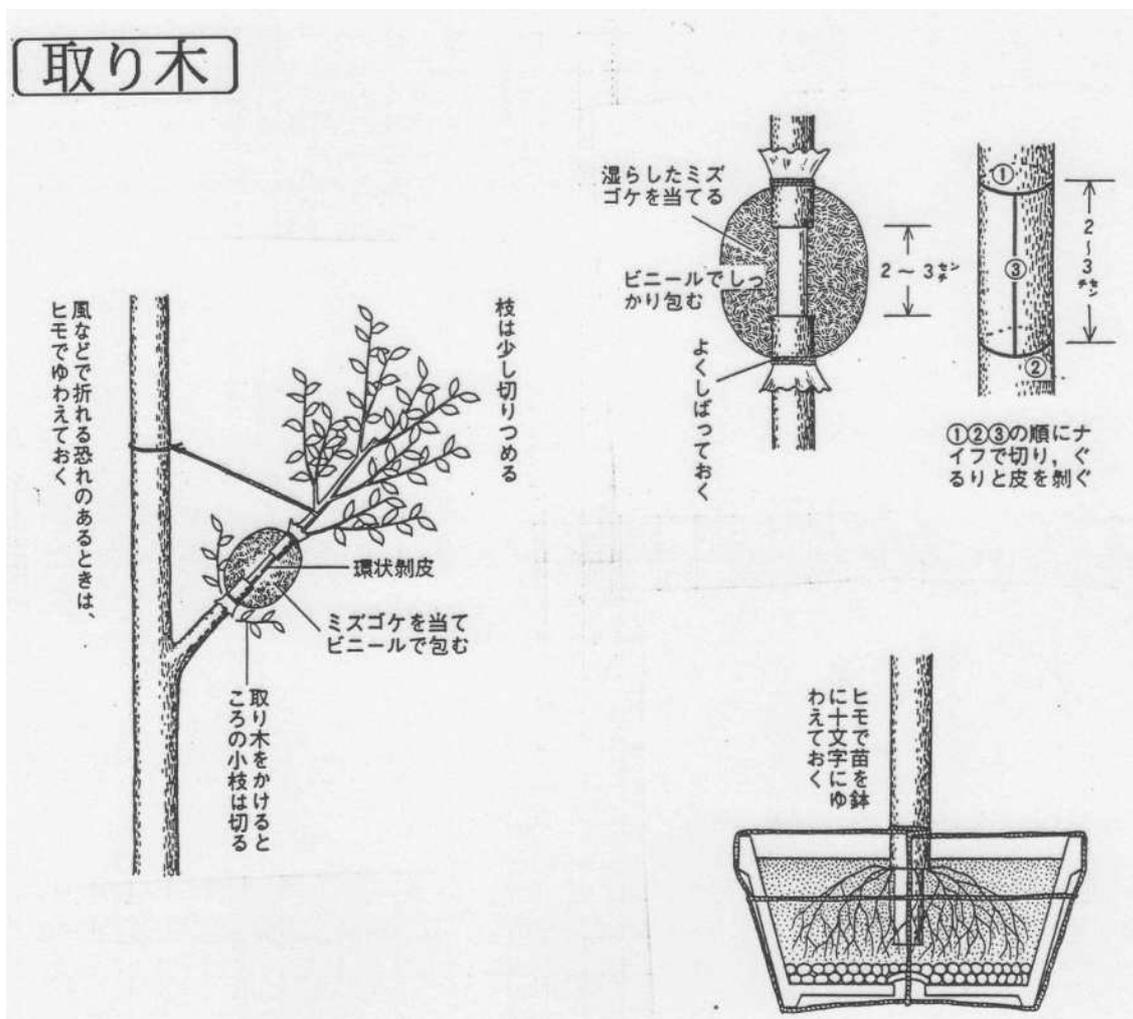
取り木

挿し木では出来ない大きな枝が取り木によってできます。

形成層の外側（師部）を光合成で出来た養分が通り、その内側を（導管）水が通っている仕組みを利用して発根させる技術です。

◎施工方法

1. 取り木をする枝を決める。若木で健康な樹木を選ぶ。
2. 枝の大きさにより 2~10 cm 程度、形成層の外側の皮を剥ぐ。
※枝の上の切り口から根が出るので、切り口は鋭利な刃物で綺麗に切る。
3. 乾燥させないように速やかに、切り口をミズゴケで包み、それにビニール袋を被せ上下をひもで結ぶ。
4. 処置箇所が、直射日光が強い場合遮光をする。



(28年度すなみ緑塾資料 小池)

鑑賞炭づくり(飾り炭または花炭)

飾り炭(花炭)とは

元来は枝に葉や実をつけたまま炭に焼いたもので、高度な炭焼き技術が必要とされました。今日では簡単な施設でいろいろな植物をそのまま炭に焼いて自然の造形美を楽しむことが出来ます。

○注意事項

- ・火を使うので係員の指示に従ってください。
- ・缶を火から下ろしたり、焼き具合を見るのは係員に任せてください。
- ・火傷の注意と着ているものに飛び火しないように、手袋、帽子を着用して下さい。

1. 材料集め

飾り炭を作る材料は用意しますが、自分で焼いてみたい物を探しに行きます。

- ・基本的に繊維質の物はなんでも炭になりますが、形に変化があると仕上がりが面白いです。
- ・生もので大きい物は時間がかかるので、今回は乾燥した物を選びましょう。
- ・葉をつけた枝は、葉は3枚程度で、花はしっかりしている物で一重が良いです。(ツバキ類)

2. 缶に詰め込む

- ・新缶は小さな穴を開けておきましょう。
- ・同じ形態の物を同じ缶につめた方が焼き上がりの時間が管理し易いです。
- ・花物は重ねない方が良い。松かさなど硬い物は缶の上まで積み重ねて入れてよいです。
- ・物を詰め込んだら、フタが空かないように針金で縛りましょう。又は重石を載せる。



缶に詰め込む



燃やす



焼き上がり

3. 焼き始め

- ・薪で火をおこし、缶の大きさによりかまどに2～3缶載せます。
- ・炭化させるには、ある程度の火力が必要ですが、菓子缶で行なう場合は火が缶を少し覆う程度にしましょう。

4. 焼く時間

- ・早い物で20分～30分、生ものは60分以上程度かかるものもあります。
- ・焼き上がりの目安は、缶の中から出る煙が透明になる頃です。

5. 焼き上がりの確認

- ・火から下ろし冷めてからフタを空け、中の様子を確認し、焼きが甘い場合は更に火にかけてみましょう。焼きあがった物は十分冷ましてから取り出します。

6. 取り出し

- ・焼き上がりの炭は壊れやすいので素手で丁寧に取り出しましょう。
- ・器を用意して盛り付けて楽しみましょう。

7. 作品は持ち帰りましょう。

《炭ですから見えないところに火が残っている事があるので最注意》

(文責：小池英憲)

どんぐり ストラップづくり (子ども用)

木の実など、しぜんのざいりょうをつかった、世界に1つだけのストラップをつくろう！
主なざいりょうは木の実です。木の実と小枝を使って、おもしろい作品をつくろう！

- 木の実ってなに？

どんぐりなど、たくさん仲間がいます。形や色をくらべてみよう！

クヌギ、コナラ、スダジイ、アベマキ、ムクロジュ、

- じゅんび

木の実を水につけます。ういたものは、のぞきます。その後、30分ぐらいグツグツにて、10日間ほど、外でかわかします。

- つくりかた



・ざいりょう



・ヒモをボンドでどんぐりに付けます



・飾りに穴を空けます



・つり糸を使いヒモを通します



・順番に飾りを糸に通して行きます。



・釣り糸からどんぐりに移動します。



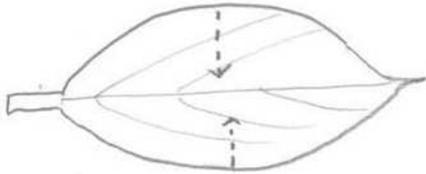
・飾りをボンドで止めて、できあがり



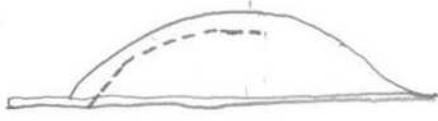
(作成：28年8月5日小池)

葉っぱ遊び (子ども用)

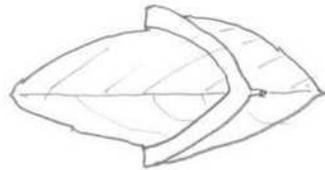
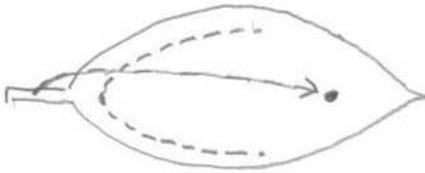
1. ゾウリ (ビーチサンダル)



・葉を2つ折りにする



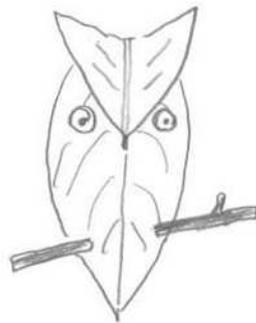
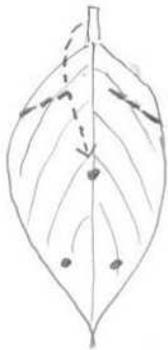
・下の方からハサミで
半分程度切る



・切った葉を開いて前に折り曲げ葉に差し込む



2. フクロウ



1. 葉の上の方を葉脈に添って半分程度切る
2. 切った葉を前に折り、葉に差し込む
3. 目玉を付ける
4. 止まり木の小枝を差し込む



(作成：小池 28. 8. 1)

庭木の手入れ（剪定）

1. 剪定と手入れ

樹木の手入れで「剪定」という言葉が定着しているが、この言葉は園芸、造園の分野で使われている言葉で、庭師は手入れという言葉を使っている。

この大きな違いは外側を刈り込む、大きな枝を切る事が主体でなく、樹木の中に手を入れて透かしながら樹形を整えて行くところにある。

2. 剪定の目的

- ・樹種固有の美しい樹形を表現する
- ・枝葉の全体的なバランスをとる事により、自然生長力を将来にわたって維持させる。
- ・樹冠内への日照不足を防ぎ通風をまし、病虫害の発生を防ぐ。
- ・防風による倒木、枝おれを防ぐ。
- ・庭全体の納まりを考えた樹形の維持を行う。
- ・開花、結実を促す。
- ・大きくなりすぎた樹形を作り直す。・傷害箇所の処置。

3. 剪定の基本的な考え方（ポイント）

- ・自然で釣合いが取れていて調和している事
- ・樹木は一般的に頂芽優勢の性質があるので、上・中・下の枝のバランスは概ね1：2：3とすると良い。
- ・幹と樹冠との概ねのバランスは6：4程度が良い（街路樹・単木）
- ・下枝の高さは利用目的により決め、管理する。
- ・頂上枝は基本的に1本に仕立てる。
- ・枝は基本的に元が太く先に行くほど細く、1本の線になるように仕立てる。
- ・枝の剪定はぶつ切りでなく、斜め切りを基本とする。
- ・病虫害に侵された枝は切除する。
- ・先ず不要枝の剪定から始める。コブを作らないために同じ場所で切らない。枝の更新を図るために小枝は残す。
- ・枝の出方、萌芽力の違いなど、枝の性質を理解しておく。
- ・枝の切る位置により、枝の伸び方が違い不要枝の発生が多くなる。
- ・花芽分化の時期を考えて剪定する。
- ・剪定する事は樹木に大きなストレスを与えている事を意識して、剪定期間は樹木の生長サイクルを考慮して行う。（資料図—1）

4. 剪定の種類

①目的による呼び方

- ・整枝剪定　・整姿剪定

②手法による呼び方

- ・枝おろし剪定・枝抜き（透かし）・切りつめ・切り替えし・刈り込み・緑摘み・もみ上げ

5. 伝統の技術を引き継ぐ

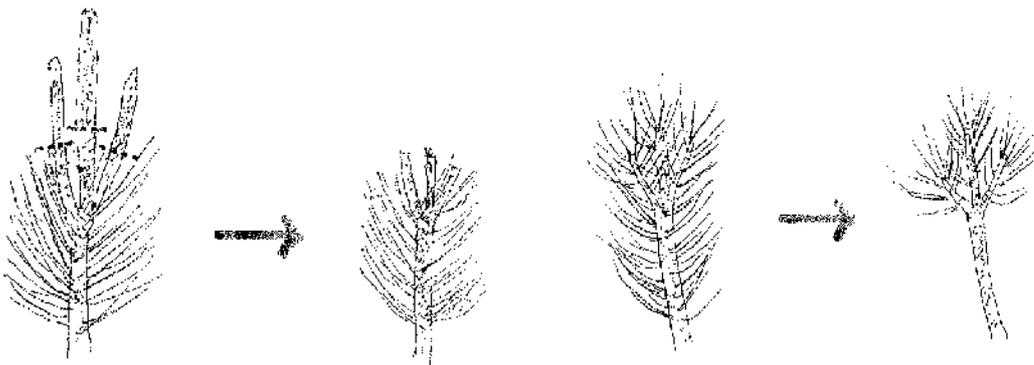
数百年経過した古庭園の景観は、樹木の個々の特徴を生かした景観の中に納まっている事は不思議である。これは剪定が単なる枝切りでなく、植物の生理を良く理解し、剪定の時期、切る位置を見極める庭師の力量である。庭師たちはその作業に剪定、切ると言う言葉は使わず外す、挟む、飛ばす、透かす、摘む、抜く、詰める、下す等の表現は、樹を活かすための思いからである。

(参考図-1) 樹木の生長サイクル

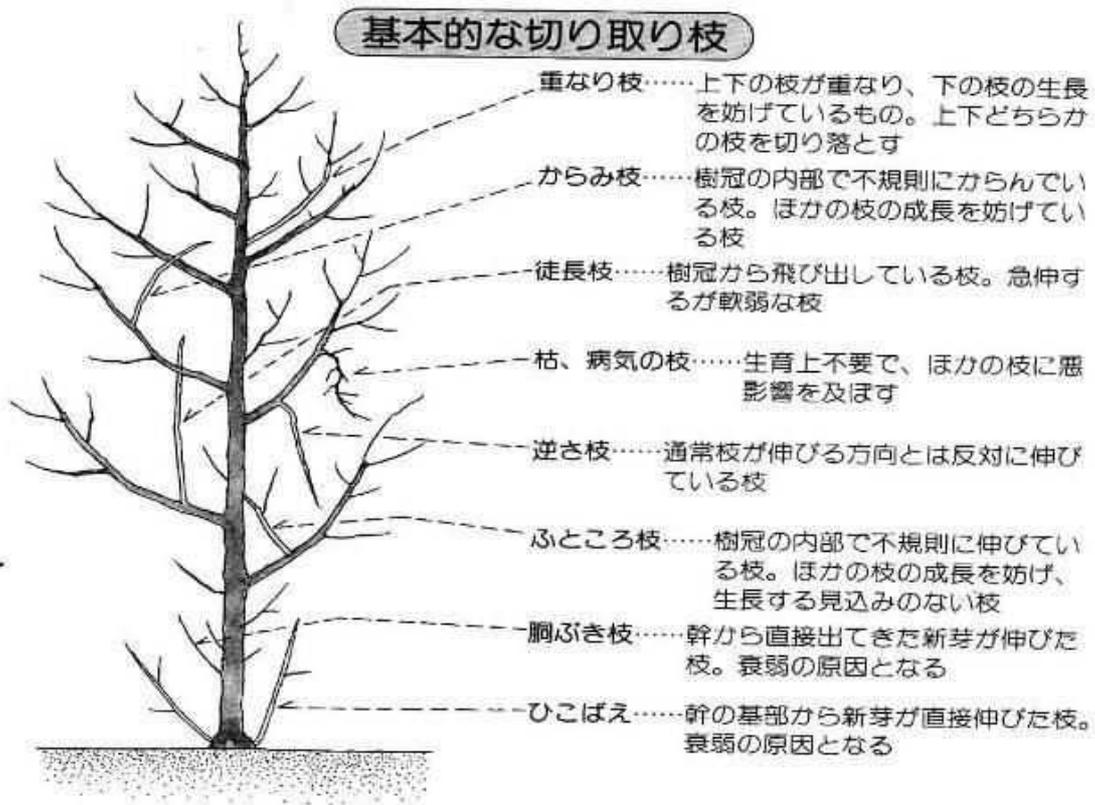
項目 \ 季節		冬	春	夏	秋
樹体内養分の変化 (根も含む)		— 成育と共に養分は減少する —→			←— 蓄積始まる —→
1年の成長サイクル		・休眠 ・水 上	・萌芽 ・展 葉	・成 葉 ・伸 長	・伸長停止 ・落 葉
剪定適期	常		■		
	針	■			■
	落		■		■
強剪定	適期	■			■
	危険期			⇔	

6. 剪定の手法

- ・松のみどり摘みともみあげ



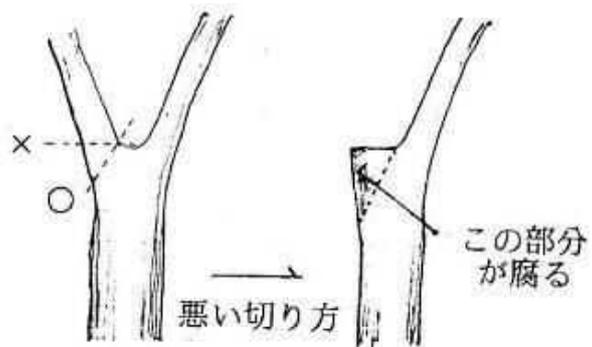
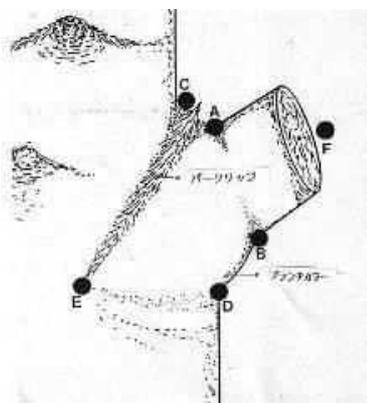
○先ず不要枝から剪定



7. 剪定の手法

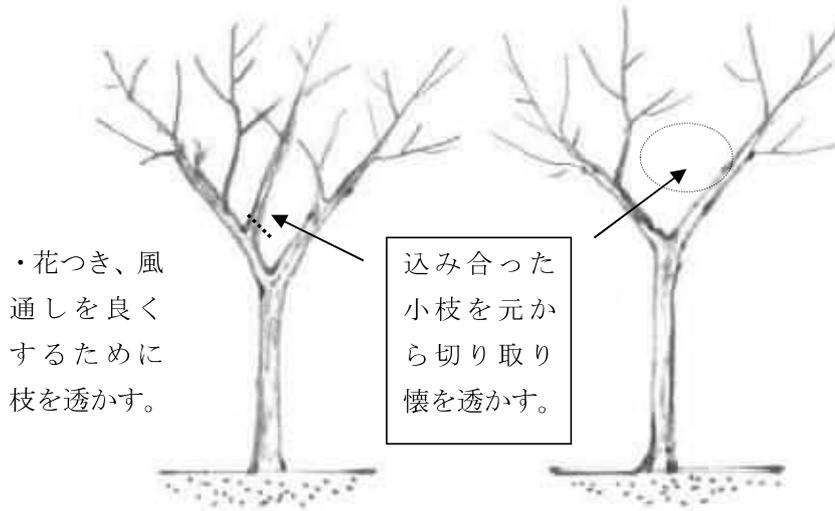
1) 枝おろし剪定

- ・剪定後の切り口の癒合は基本的な剪定方法と、剪定時期(参考資料—1)樹木の健康状態により決まるので、大枝は幹瘤を残しバークリッジの外側の a-b で切除する。切り口断面の直径が 5 cm 以上ある場合、切り口を防腐処理する。
- ・大枝、分枝部分の剪定。



2) 枝抜き剪定

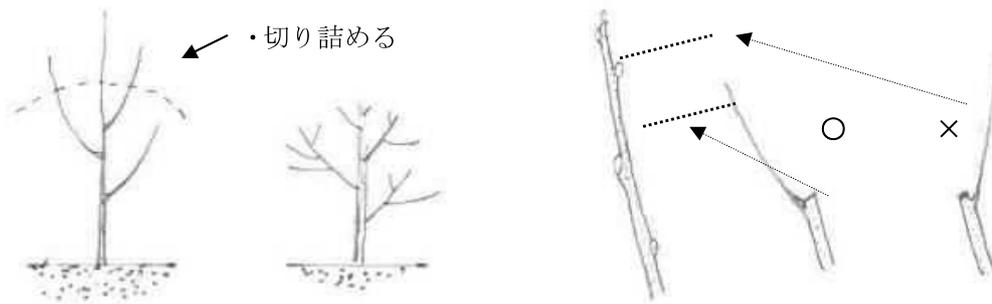
- 一般的に、枝の切る位置は枝の分枝部分である。
- この方法は色々の樹形に用いられる手法で、込みすぎた枝を間引く剪定、徒長枝、絡み枝等の不要枝の剪定にも用いられる。



3) 切り詰め剪定

樹木の生長を抑制し、樹冠を一定の大きさに保つ剪定の方法で、対象となる枝は当年枝で樹冠外に飛び出した枝を短く詰める剪定。

当年枝を伸ばし放しにしておくと先端部の芽だけが伸びて、中間部以下の芽は発生せず潜芽となり枝葉がなくなり樹形が乱れる原因となる。まのびせず樹形の整った樹形を作るには、中間部以下の定芽の位置で芽の伸びる方向を確認して切り詰め剪定を行う。

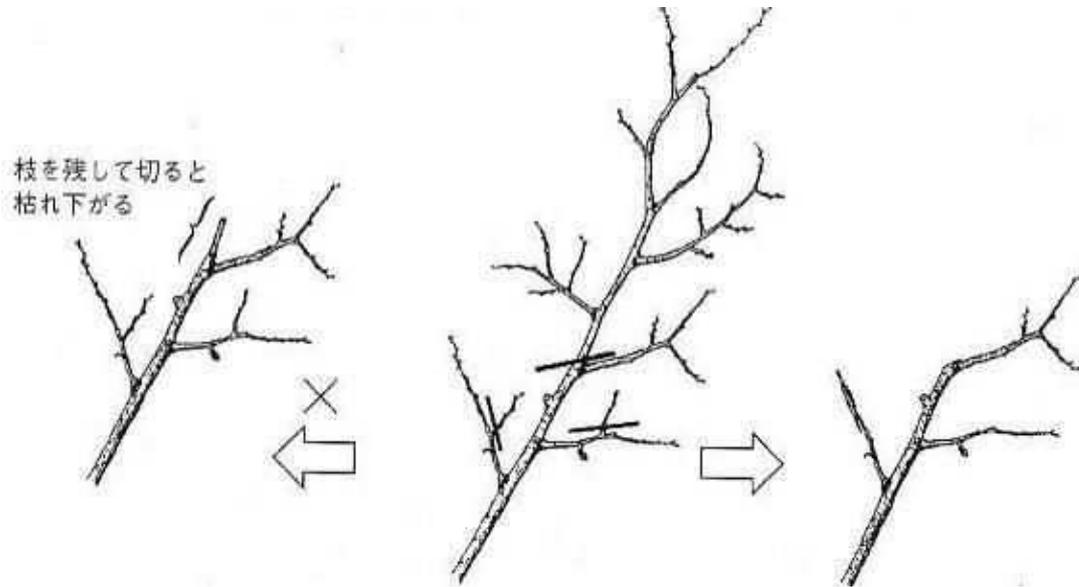


- 樹形を小さくしたり、一定の大きさに保つために枝を切り縮めること。

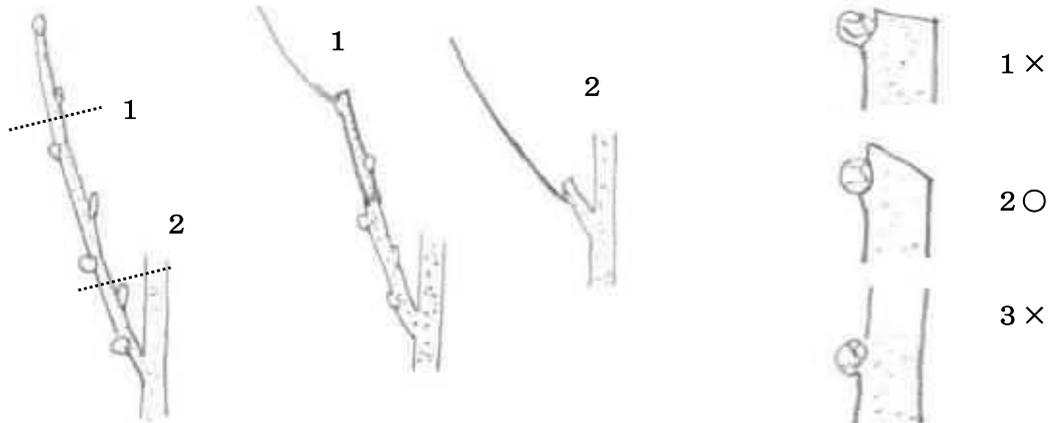
- 内芽で切ると枝が内側へ
外芽で切ると外側へ伸びる
外芽の剪定が正しい

4) 切り替えし剪定

自然樹形を大切にするモミジ類など枝先を切り詰めせず、枝分かれ部分で切除し、樹形縮小を図る。樹形縮小を伴わない枝透かし剪定と異なる。



○剪定の詳細技術



・切る芽の位置の違いで伸びる枝の長さが違う

1. 長くの残と弱い枝がでる。
2. 短く来ると強い枝が出る。

1. 芽に近すぎる

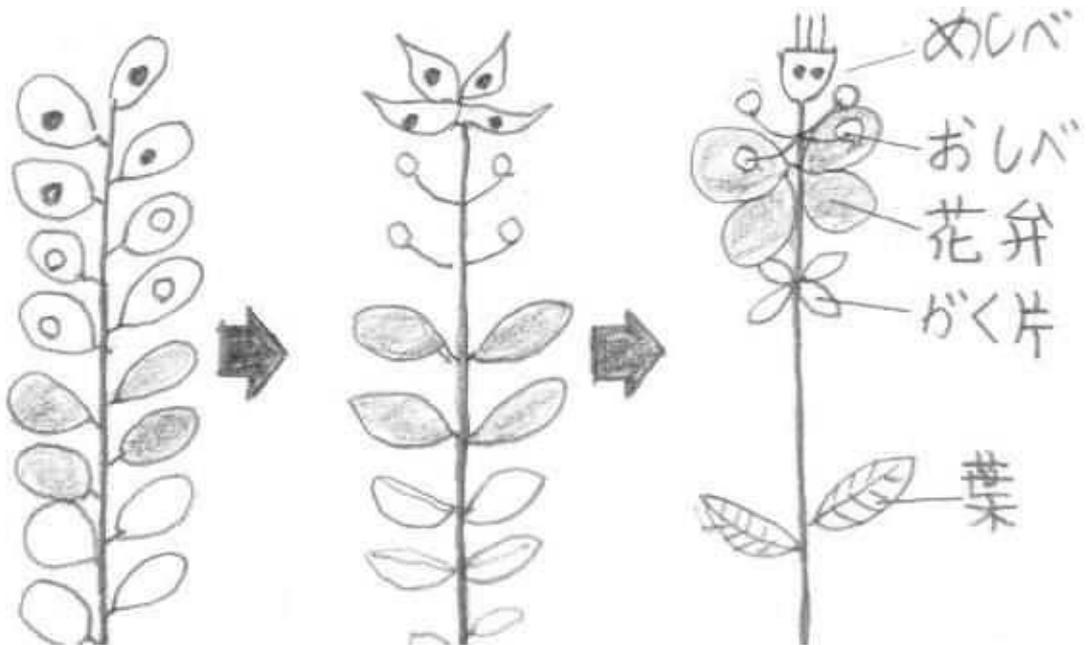
2. 芽の上で斜めきり
3. 芽の上長すぎる

8. 花芽分化・樹木の生理と剪定の関係

樹木を長時間、人工的に、健康な状態で維持するためには樹木の生理を考えて管理するべきである。特に樹体内養分が季節で大きく変化している事と、花芽（花芽分化）が花が咲く相当以前から行われている事が剪定の時期と大きく係わってくる。

次に昔から言い伝えられている事が、剪定作業に参考になるので付記する。

- 1) 根が健全で、葉が多いほど生長する。
- 2) 美しい樹形は（よい剪定）は生育が良い。
- 3) 強く切り戻した枝葉強く伸びる
- 4) 不定芽の強さは、切り口の面積に比例する。
- 5) 切り口に、水分、無機塩類が多く集積される。
- 6) 立ち枝は強く伸び、寝ている枝は弱くなる。
- 7) 芽は澱粉を貯蔵できない。芽の段階で摘み取ると後は伸びない。
- 8) 樹液の流れは背枝（曲がりの外側）が強く、腹枝（曲がりの内側）が弱い。



(文責：小池英憲 平成28年5月)

⑤もくもく探検隊

■もくもく探検隊に寄せて■

公民館に裏山があり、遊歩道が整備されている。地域には樹木医がいる。環境と人材があれば、何かできるのではないかと始まったのが「もくもく探検隊」である。周南公民館の周辺環境を生かして、樹木・植物観察や、自然工作を実施している。

里山景観が崩れつつある周南で、子どもが樹木への体験や学びを通じて、周南の植生や景観といった環境に対して関心を高めることをねらいとしている。公民館裏山の樹木にはもくもく探検隊が作った木の名札が数多くつけられている。

初年度（平成 17 年度プログラム）

9/18	木の大きさを測る (小中学校・保育園)
10/23	森の木を使ったクラフト（馬登）
11/27	落ち葉・木の実をあつめて絵を描く
12/11	樹木の冬支度を観察（地区内各寺院）
2/9	春に向かう芽吹きを観察（宮下公園）
3/5	まとめ



落ち葉を集めて（平成 17 年）

もくもく探検隊の思い出とこれから

講師 小池 英憲

もくもく探検隊は平成17年から小学生を対象として始められ、今年度で8年目を迎える。始めたきっかけはそれまで行われていた地域の自然観察に変わって、「ふるさと運動」の一環として公民館隣接地の里山を利用して自然体験が出来ないだろうかという考え方だったと思う。その当時の公民館担当は鈴木恵子さんで、その後田村さんに引き継がれ、その後も多くの公民館職員の方と外部協力者の援助で今回まで続いている。

もくもく探検隊は6月頃から始めて月1回で年6回、9時から12時まで、基本的に公民館と隣接地の里山を基地として活動している。

発足当時の思い出であるが、子どもたちが集まってきたが、玄関先に座り電子ゲームに夢中になっている。その光景を見たとき、森の話、遊びに興味を持ってくれるか自信が持てなかった。しかし、単純なドングリコマ、紙飛行機等の作成遊びに夢中になっている姿を見て一安心。クラフト作製では、大人では思いつかない柔らかない発想に驚かされ教わることが多い。

この数年周南を離れて久留里城の近くで開催される「子ども樹木博士」のイベントに参加している。木の葉っぱをみて樹木名をあてるゲームで、低学年には難しいゲームと思うが、真剣に挑戦している姿を見ると子どもたちの学ぶ姿勢に頼もしさを感じる。

子ども達の色々な表情は可愛い。その表情で大人に訴えかけている。その表情をとらえて子どもたちに答えてあげる時間、余裕、知識が少なくなっているのではないだろうか。子ども達はどんどん知識を吸収し育って行く。

これからは、昔山遊びしたことのある熟年らしい周南の自然環境で、自然と交わる楽しさを感じたいと思う。

尾松かきのクリスマスツリー



公民館研究大会 第1分科会「地域拠点としての公民館」発表用資料より

2. 「ふるさと運動」の主な軌跡

公民館が開設し、周南の地域を住みよい素晴らしい地域に発展させていくには、先人の創った有形無形の文化、歴史を踏まえる事なくしてはありえないという熱い思いから「周南ふるさと運動」は公民館開設当初から始まり今日まで次のような軌跡を残しています。

- ◇昭和51年5月 周南公民館報「ひろば」1号発刊
- ◇昭和52年3月 ふるさと誌創刊・平成元年ふるさと誌完成（12地区別）
- ◇平成56年11月 第34回優良公民館文部大臣賞受賞
- ◇平成2年 ふるさと地域手作りマップ開始（12地区別平成12年完成）
- ◇平成14年 ふるさと地域手作りマップすなみ（総集編）
- ◇平成16年10月 すなみ散歩マップ



・ふるさと誌



・ふるさと地域手作りマップ



・周南公民館 文化祭特別展

3. 「すなみ巨樹・古木・名木マップ」(以下マップ) 作りの経緯と概要

前述の通り公民館開設当初の先達の思いを「ふるさと運動」として今日まで受けつぎ、発展させてきた事がわかります。その思いを受け継ぎ、しかも先達が残してくれた記録を下敷きとして、マップ作りは計画されました。

1) マップ作りの目的

新旧の交代、開発による地域環境の変化、高齢化等地域環境が急激に変化している今日、樹木をマップに落とし、樹木の思いで・謂れを含めて、後世に残す事は、地域の文化を継承する事において大切な作業だと考えマップ作成を決定しました。今後、マップを利用して、地域の文化や自然に親しむ活動を行う事で、巨樹や森に関心を持つ人が増えて、地域住民の連携が深まれば良いと思っています。

2) マップ作りの組織

マップ作りの組織は、地区民の全員参加を目指し、自治会長、公民館運営審議委員、地域活動委員、公民館職員の合計37名の体制で平成20年度実行委員会を作り、2年間かけて作成に取り組みました。巨樹・古木・名木の選出は12地区の自治会長さんにまとめて出してもらう方法で行い、集まったデータは選考基準を作り選考委員会で決定しました。

マップ作りの基礎となる地区の地図は「ふるさと地域手作りマップ」を利用させていただきました。マップ作りの完成目標を周南公民館文化祭の特別展にあわせて、その場で住民に発表し、その後マップを全戸に配布しました。

4. 「すなみ巨樹・古木・名木マップ」を活用した地域活動

マップを活用した取り組みは地域を中心に行う事を前提としていますが、君津市内のイベントにも参加し、地域のPRにも一役かっています。

- ◇平成21年10月31日～ 文化祭特別展で発表 その後マップを全戸に配布
- ◇平成22年7月1日 周南小中学校徒歩遠足で巨樹の説明
- ◇平成22年10月5日 マップを使って地域住民を対象とした巨樹めぐり
- ◇平成23年2月5日 「共に学ぶ市民の集い」君津市公民館連絡会で発表
- ◇平成23年9月14日 公民館事業『寿学級』で巨樹・古木・名木マップの説明



・君津市で行われたイベント



・地区民と歩く巨樹ツアー



・小中学校徒歩遠足で説明

5. 地域活動を通じた新しい展開

新しい動きとして、マップに記載された巨樹がきっかけで「浜子の歴史と景観を守る会」が発足しました。この事はこれまで継続してきた「ふるさと運動」の大きな成果だと思えます。このような動きが周南地区の他の自治会で起る事を期待しています。

6. 終わりに

初代公民館館長が掲げられた公民館の3つの顔「鎮守の森」「文化の森」「広場」は各時代で文言の表現は違いますが「ふるさと運動」として、大きなくくりで継承されていることが、周南地区の大きな特徴だと感じています。

歴史の生き証人として、その場所から動くことなくじっと見つめている巨樹達を、思い出と共に後世に守り引継ぐ事が出来れば良いと思っています。